

Data(2014年3月現在)

所在地：〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1

スタッフ：公衆衛生看護学分野：大森純子(教授)、田口敦子(助教)、地域ケアシステム看護学分野：末永カツ子(教授)、高橋香子(准教授)、栗本鮎美(助教)

URL <http://www.nursing.med.tohoku.ac.jp/>



東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 公衆衛生看護学分野・地域ケアシステム看護学分野

History and Now

どのような機関なのでしょう？

本学は、東北大学医療技術短期大学部を前身とし、2003(平成15)年10月に東北大学医学部保健学科として改組され、今年で10周年を迎えます。看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻の3つの専攻で構成されています。2008(平成20)年には、医学系研究科保健学専攻博士課程(前期2年の課程)が設置され、2010(平成22)年に後期3年の課程が設置されました。2014(平成26)年4月からは、新しく大学院(保健学専攻博士課程前期2年の課程)に保健師養成コースが設置されました。

Education

どのような教育をしていますか？

学部では、ヘルスプロモーションの理念にもとづく個別ケア、健康の社会的要因、ライフサイクルに応じた健康課題と行政・職域・学校における看護について学び、看護職として視野を広げ、洞察力を深める教育をしています。震災後の看護政策として、県・市町村・看護協会の取り組みを伝承する機会も設けています。大学院では、東北の復興を牽引する創造的な実践力とマネジメント力を備えた専門能力を育成する保健師養成コースを開講しました。保健師志望者や、より高度な能力を修得したい保健師の学びを支援し、実践と研究の連動・発展に貢献します(社会人入学可能)。

Research

どのような研究をしていますか？

私たちは、実践に役立つ研究であることを大切に、地域保健・福祉関係の実践者と共同して研究を行っています。東日本大震災後は、今後の災害対策を具体化するために、東日本大震災の際に保健師がどのように活動したかをヒアリング調査によって明らかにしてきました。また、近年、ソーシャルキャピタルの醸成が重視されていますが、その一要素である「地域への愛着」を育む健康増進プログラムの開発を行っています。そのほかにも、保健師の住民組織との協働方法や、地区診断の技術の明確化に取り組んでいます。

Collaboration

保健活動の現場とのつながりは？

被災地の保健師活動支援、新任期・中堅期・管理期における現任教育への協力、県内外の自治体の地区組織育成支援や保健計画策定の協力など、現場の保健活動との「協働」を大切に活動しています。また、本学のある宮城県は、東日本大震災において大きな被害を受けましたが、実習においては県下の保健所・市町村に多大な協力をいただいて実施することができています。保健師養成コースの実習では、実習市町村と協議する合同ミーティングを定期的に開催し、保健師活動のコアを確認しながら準備を進めています。

ひとこと

困難な課題に直面しても、保健師としての職業的アイデンティティを発達させながら生き生きと活動し続ける保健師さんの姿は魅力的ですね。“大学院で保健師をめざす方へ！ 保健師としてブラッシュアップしたい方へ！”次年度の入試に向けて、大学院説明会を6月7日に東京で実施します。ぜひご参加ください(詳細はホームページをご覧ください)。いつでもご相談に応じます。
……大森・末永

あなたの研究室を紹介してください！ 保健師ジャーナルでは、このページに登場してくださる研究室(保健師教育に関わる講座・分野・領域)を募集中です。研究室での保健師教育の特色や、研究活動、現場とのつながりを紹介してください。

応募について ●まず電話、FAX、E-mailにて編集室までご連絡ください。掲載分には医学書院特製図書カードを進呈いたします。

連絡先 ●医学書院「保健師ジャーナル」編集室 ☎ 03-3817-5774 FAX 03-5804-0485 hokenshi@igaku-shoin.co.jp